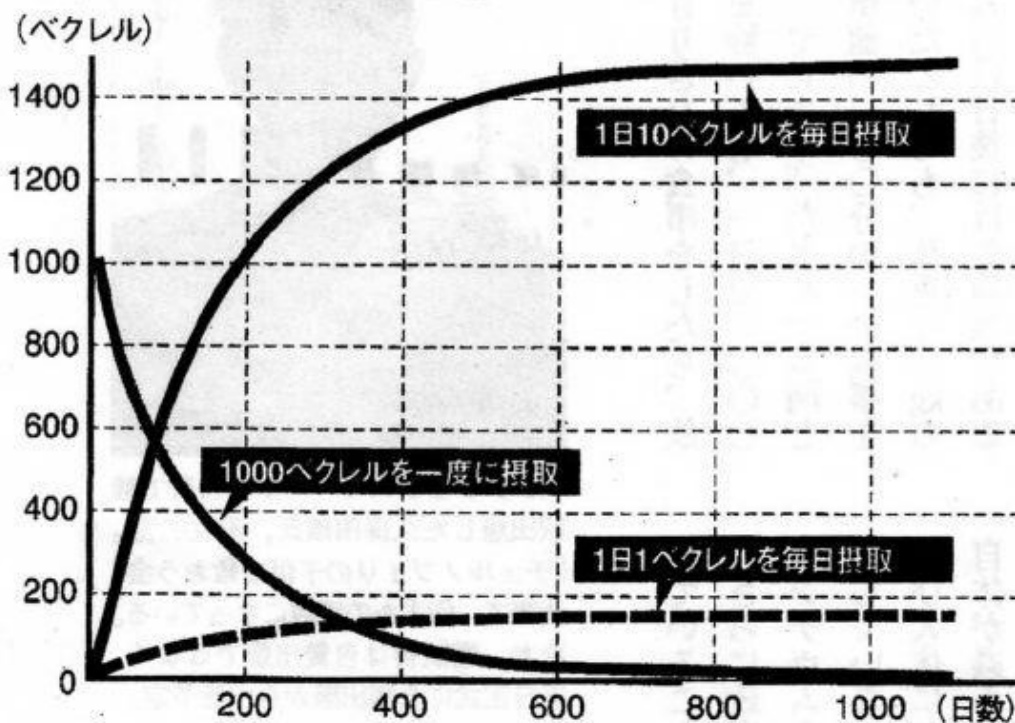


たかが1ベクレル、されど1ベクレル

放射性セシウムの1回摂取と長期摂取による体内残存量の経時推移



セシウム137について、1000ベクレルを一度に摂取した場合と、1ベクレル、および10ベクレルを1000日間、毎日摂取した場合の全身放射能(ベクレル)の推移。

出典：ICRP PUBLICATION111,2009 訳：竹之内真理

※ ICRP PUBLICATION 111 2009では、毎日継続して汚染食品を摂取することによる体内残存量は、同量を一時的に摂取した場合と比較し、負荷が大きくなることをグラフとともに提示しています。

<POINT・1> 毎日10Bq摂取し続けた場合、一度に1000Bq摂取した場合と比較して100日かからず体内残存量は逆転。

<POINT・2> 200日で体内のセシウム137が1000Bqを超える。700日で体内のセシウム137の濃度が1400ベクレルを越す。

<参考> セシウム137は体重1kgあたり10Bqくらいから、子どもの心臓の筋肉細胞(心筋)の病気を引き起こし、体重1kgあたり20-30Bqで不整脈が観察され、体重1kgあたり50Bqでは生命にかかわる臓器が病気になる可能性を示唆する専門家も。

「図は、1000BqもCs137を一時的に摂取した場合と、毎日1Bq及び10BqもCs137をそれぞれ1000日間にわたって摂取した場合の全身放射能の変化を示す。同じ総摂取量に対して、期間期末における全身放射能は大きく異なっている。これは、汚染食品を日常的に摂取する場合との負荷が本質的に異なることを示している。」